



HP Unified Functional Testing

ソフトウェア・バージョン: 12.50
Windows® オペレーティング・システム

新機能

ドキュメント・リリース日: 2015 年 7 月 (英語版)
ソフトウェア・リリース日: 2015 年 7 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® およびAcrobat® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Google™ およびGoogleマップ™ は、Google Incの商標です。

Intel® およびPentium® は、Intel Coporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XPおよびWindows Vista® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスし、**[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。
<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions統合とベストプラクティス

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) では、HPソフトウェアのカタログ記載製品がどのような仕組みで連携、情報の交換、ビジネスニーズの解決に対応するのかが確認いただけます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) では、ベストプラクティスに関するさまざまなドキュメントや資料をご覧頂けます。

UFT 12.50 の新機能

UFT 12.50 には、次の新機能とサポートが追加されています。

本項には、次の項目が含まれています。

- 「モバイル・アプリケーションのテスト機能の拡張」(4ページ)
- 「さまざまなブラウザでの UFT の Web オブジェクト認識の調整」(5ページ)
- 「Firefox 用の新しい UFT 拡張」(5ページ)
- 「Lean Functional Testing (LeanFT) を使用して慣れ親しんだ開発 IDE で機能テストを作成」(5ページ)
- 「BPT テストを UFT で作成して実行するための強化機能」(6ページ)
- 「BPT パッケージ・アプリ・キットを使用した BPT による SAP アプリケーションのテスト」(7ページ)
- 「軽量な HTML ベースの実行結果レポート」(8ページ)
- 「関数ライブラリをソリューション項目として追加」(8ページ)
- 「GIT ソース・コード・リポジトリとの統合」(8ページ)
- 「UFT IDE がない状態での UFT テストの実行」(8ページ)
- 「新しいライセンス・メカニズム」(9ページ)
- 「キーワード・ビューの使いやすさの向上」(9ページ)
- 「EXT-JS ツールキットで設計されたアプリケーションに対する新しいサポート」(9ページ)
- 「バージョン 12.50 での製品の機能強化」(9ページ)
- 「UFT 12.50 での新しい環境のサポート」(10ページ)

モバイル・アプリケーションのテスト機能の拡張

- オブジェクト・スパイを使用して、モバイル・アプリケーション内のコントロールを調査し、そのプロパティを取得できるようになりました。調査はアプリケーション内のコントロールをクリックするだけで実行できます。
- モバイル・アプリケーション内でテスト・オブジェクトを強調表示できます。オブジェクト・リポジトリでテスト・オブジェクトを選択すると、コントロールがモバイル・アプリケーション内で自動的に強調表示されるようになりました。
- テストの記録中に、任意のテスト・オブジェクトに対して標準、ビットマップ、テキストの各チェックポイントを追加できるようになりました。
- 1つの記録セッションまたは実行セッションの間に、複数のアプリケーションに対して操作を実行できます。後に続く各アプリケーションでステップを記録または編集する前に、記録および実行の設定を変更します。
- UFT ツールバーのボタンをクリックして、テストしたいデバイスおよびアプリケーションが含まれているリモート・アクセス・ウィンドウを開けるようになりました。ボタンをクリックすると、

テストするデバイスとアプリケーションを指定するダイアログ・ボックスが開きます。デバイス上でアプリケーションのインストール、再インストール、再起動のいずれを行うかを指定することもできます。

さまざまなブラウザでの UFT の Web オブジェクト認識の調整

UFT 12.50 では、あらゆるブラウザに対してより統一されたテストを作成するための多くの機能強化が行われています。

- いくつかの Web オブジェクト (**Browser**, **WebEdit**, **WebNumber**, **WebRange**, **WebList**, **WebFile** など) の一部のプロパティが、複数のブラウザタイプ間で統一されたプロパティとなるように調整されました。
- 追加 Web オブジェクトが、Chrome を含むすべてのブラウザでサポートされるようになりました。
- [記録と実行環境設定] ダイアログ・ボックスのデータ・テーブル・パラメータまたはテスト・パラメータを使用することで、テストの実行セッションまたは記録セッションに対してブラウザ・タイプを設定できます (テスト実行ごとにブラウザ・タイプを手動で変更する必要はありません)。
- Chrome 記録で、[Web イベント記録の設定] を変更する機能がサポートされるようになりました。

Firefox 用の新しい UFT 拡張

Firefox 用の UFT 拡張が変更され、Firefox の複数のバージョンで同じ拡張を使用できるようになりました。このため、Firefox の新バージョンがリリースされるたびに拡張をアップグレードする必要はありません。

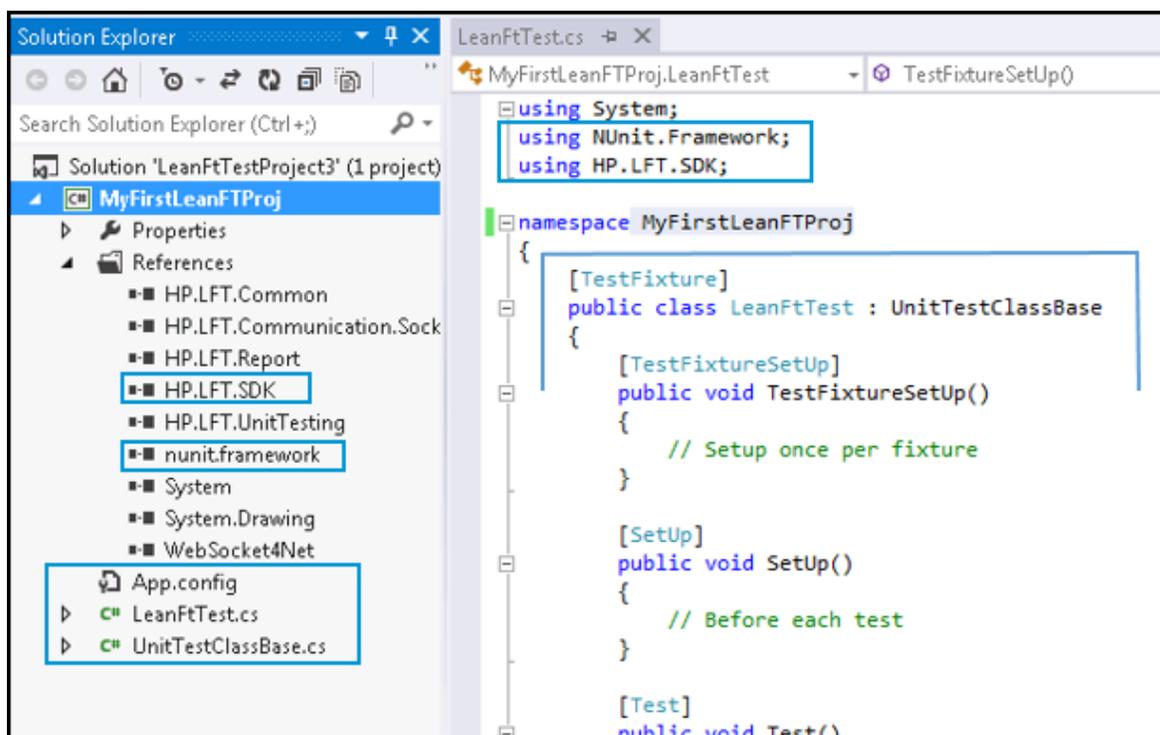
この拡張は、UFT のインストール後に初めて Firefox を開いたときから標準設定で利用可能です。Firefox を開いたら、この拡張を有効にしてください。

注: UFT Agent for Firefox は Firefox バージョン 33 以降でサポートされています。33 より前の Firefox バージョンをテストする場合や、Java アプレット・テストの実行が必要な場合は、従来の Firefox エージェントを使用する必要があります。詳細については、『HP Unified Functional Testing アドイン・ガイド』の「Web Add-in のクイック・リファレンス」を参照してください。

Lean Functional Testing (LeanFT) を使用して慣れ親しんだ開発 IDE で機能テストを作成

経験豊富な UFT ユーザは、LeanFT を使用することで、Visual Studio, Eclipse のような開発用 IDE で C#, Java などの言語を使用して Test Automation を作成できるようになりました。

LeanFT には最も一般的な AUT テクノロジーを対象とする包括的な SDK があり、オブジェクトのメンテナンスと高速コード生成のための特殊プラグイン・ツールが用意されています。



LeanFT は、HP Unified Functional Testing (UFT) ユーザーが容易に習熟できるように設計されています。SDK オブジェクト・モデルには、よく似た機能のテスト・オブジェクトとテスト・メソッドが揃っています。また、LeanFT アプリケーション・モデルおよびオブジェクト識別センター・ツールには、オブジェクト・リポジトリとオブジェクト・スパイに似た機能のほかに、C# または Java コードを容易に生成するための追加機能が用意されています。

LeanFT は、ALM などの HP 製品との統合も提供しています。また、Jenkins などの継続的統合システムに LeanFT テストを統合することもできます。

LeanFT は、UFT インストール・ウィザードからインストールできます。お持ちの UFT ライセンス・キーを使用することで、同じコンピュータ上で LeanFT を有効にすることができます。

また、UFT がインストールされていないコンピュータ上にスタンドアロン・バージョンの LeanFT をインストールすることもできます。

詳細については、Lean Functional Testing ヘルプセンター (<http://leanft-help.saas.hp.com/en/12.50/HelpCenter/Default.htm>) を参照してください。

BPT テストを UFT で作成して実行するための強化機能

UFT で Business Process Testing を使用する機能が、次のように改善されました。

- BPT ビューを使用することで、UFT で Business Process Testing のワークフローを効率化できます。BPT ビュー (Business Process Testing ユーザー向けに用意された、UFT 開始ページの別バージョン) では、一般的な多くのビジネス・プロセス・テスト・タスク (ALM への接続、Business Process Testing のグローバル設定の構成、ビジネス・プロセス・テスト/フローやビジネス・コンポーネントの作成またはオープン、ビジネス・プロセス・テスト/フローやビジネス・コンポーネ

ントの記録開始、SAP アプリケーションのテスト/フローの学習など）を簡単に開始できます。

- **テストのキャンバス・ビューの追加**：ビジネス・プロセス・テストを開くときに、グリッド・ビューのほかにキャンバス・ビュー（ALM と同じようなビュー）でもテストを表示できます。このビューでは、別の視覚的表現でテストが表示されます。キャンバスには、テスト・フローの全体が表示されるだけでなく、テストに含まれるコンポーネント間のリンクも表示されます。
- **テスト内の反復で使用するパラメータ値をエクスポート/インポートする機能**：テスト・コンポーネントのパラメータ構造を Excel にエクスポートし、それらのパラメータ値を反復ごとに変更できるようになりました。Excel で値を変更したら、そのスプレッドシートをテストに再インポートし、新しいパラメータ値をテスト実行に使用できます。さらに、ALM の [テスト設定] で Excel を使用し、テスト・ラボのテスト実行に用いることもできます。
- **ビジネス・プロセス・テストの記録**：ビジネス・プロセス・テストのすべてのステップを同時に記録できるようになりました。記録セッションを開始したら、必要に応じてコンポーネントを追加し、テストを別々のユニットに分割します。ステップは関連するコンポーネント内に記録され、テスト・オブジェクトはコンポーネントのローカル・オブジェクト・リポジトリで保存されます。これにより、これらのオブジェクトが後で使用できるようになります。
- **アプリケーション内の全部または一部のオブジェクトをワン・クリックでキャプチャする機能**：[キャプチャ] ツールバーを使用して、アプリケーション内のすべてのオブジェクト、またはアプリケーションの一領域内のすべてのオブジェクトをワン・クリックでキャプチャできます。これらのオブジェクトは、コンポーネントのローカル・オブジェクト・リポジトリに自動的に保存され、後で使用できるようになります。これにより、オブジェクト・リポジトリを別々に開き、そのリポジトリにオブジェクトを追加し、オブジェクト・リポジトリをアプリケーション領域に関連付け、そのアプリケーション領域をコンポーネントに関連付けるという一連の操作が必要がなくなるため、コンポーネントとテストの作成にかかる時間を短縮できます。
- **ビジネス・プロセス・テストをさまざまなテスト設定で UFT から直接実行**：これまでは、ALM からビジネス・プロセス・テストを実行するときのテスト設定を使用するだけでしたが、異なるテスト設定で UFT から直接テストを実行できるようになりました。これにより、特定のビジネス・プロセス・テスト実行で使用するデータを容易に変更できるようになったため、実行前に、コンポーネントとテスト内の複数のパラメータを手動で変更する必要はありません。

BPT パッケージ・アプリ・キットを使用した BPT による SAP アプリケーションのテスト

BPT パッケージ・アプリ・キットを使用して、ビジネス・プロセス・テストによる SAP GUI または SAPUI5 アプリケーションのテストとフローを容易に作成できるようになりました。これにより、次のことが可能です。

- **アプリケーションのコンポーネントを学習してテストを作成**：SAP アプリケーションの領域ごとに個々のコンポーネントを作成するのではなく、アプリケーションの領域に応じて UFT にコンポーネントを学習させることができます。UFT は、アプリケーションのその領域のトランザクションを自動的に識別し、トランザクションごとに別々のビジネス・コンポーネントを作成します。学習セッションが終了すると、UFT の学習結果が示され、ユーザは保持するコンポーネントと破棄するコンポーネントを選択できます。
- **変更検出モードでのテスト実行と変更点によるコンポーネントの更新**：SAP アプリケーションでの

テストを変更検出モードで実行できます。これにより、アプリケーション内の変更点を UFT に比較させ、アプリケーションの変更点に基づいてコンポーネントを更新できます。実行が終了した時点で変更点のサマリを表示し、更新の対象を決定できます。

注: 変更検出モードを使用できるのは、ALM 12.21, ALM 12.01 パッチ 2 以降、または ALM 11.52 パッチ 7 以降を実行している ALM サーバのみです。

軽量な HTML ベースの実行結果レポート

テストまたはコンポーネントを実行したら、軽量かつ高速な HTML ベースのレポートで実行結果を確認できます。このレポートには、テスト実行またコンポーネント実行のすべてのデータ（テスト・フローのステップに関する情報、エラー情報、テスト・オブジェクトおよびアプリケーション内のオブジェクトに関する情報、スタック・トレース情報など）が含まれます。また、ほかの実行結果のソース（画面キャプチャ、データ・テーブルなど）も HTML 実行結果レポートからのリンクとして表示できます。

HTML レポートは、エクスポートしたりほかのユーザに送ったりすることもできます（そのユーザのコンピュータに Run Results Viewer をインストールする必要はありません）。

注: HTML レポートは、コンパクトで高速な実行結果レポートになるように設計されています。Run Results Viewer の全機能が含まれているわけではありません。すべての機能が必要な場合は、[オプション] ダイアログ・ボックスの [実行セッション] 表示枠（[ツール] > [オプション] > [一般] タブ > [実行セッション] ノード）を使用して、結果を Run Results Viewer で開くように UFT を設定する必要があります。

関数ライブラリをソリューション項目として追加

テスト、コンポーネント、アプリケーション領域とまったく同じように、関数ライブラリをソリューションに追加できるようになりました。これにより、テストに関連付けられていない場合でも、関数ライブラリをソリューションとともに保存できます。

注: 関数ライブラリをソリューションに追加しても、テスト、コンポーネント、アプリケーション領域との関連付けには影響しません。

GIT ソース・コード・リポジトリとの統合

GIT ソース・コード・リポジトリ内の UFT テストを UFT から直接使用できるようになりました。ソリューション・エクスプローラを使用して、ローカル・リポジトリに変更をコミットしたり、リモート・リポジトリに変更をプッシュ/プルしたりできるため、UFT で作業する前に、エクスプローラや Git Bash コマンドを使用して更新する必要がなくなりました。

UFT IDE がない状態での UFT テストの実行

フル版の UFT IDE がインストールされていなくても、UFT テストを（ALM, Test Batch Runner, 継続的統合プラグインなどのツールから）実行できるようになりました。UFT をインストールするとき、ランタイム・エンジン・コンポーネントのみのインストールを選択できます。ランタイム・エン

ジンをインストールしたら、関連する設定をインポートまたは構成して、テストを適切に実行できます。

新しいライセンス・メカニズム

UFT が、ライセンス・メカニズムとしてオートパスを使用し、オートパス・ライセンス・サーバとの統合を使用するように変更されました。これにより、シート・ライセンス、コンカレント・ライセンス、またはコンピュータ・ライセンスは、ライセンスのチェックアウト、チェックイン、インストールの各手順を補助する外部ツールを使用せずに、1つのライセンス・ウィザードでインストールできます。オートパス・ライセンス・サーバを使用して、コンカレントとコンピュータのすべてのライセンスを1か所から管理することもできます。

UFT に付属するオートパス・ライセンス・サーバは FIPS に準拠しており、UFT とライセンス・サーバ間の通信プロトコルとして HTTP/HTTPS を使用します。このライセンス・サーバは、IPv6 アドレスの使用もサポートしています。

キーワード・ビューの使いやすさの向上

UFT のキーワード・ビューでいくつかの改善が行われ、操作性が向上しています。

- メソッドのパラメータを入力するときに、[パラメータ] カラムの別のセクションをクリックする必要がなくなりました。これから入力するパラメータを示すツールヒントが指示されるようになり、パラメータ情報をタイピングするだけで入力できるようになりました。
- テスト・オブジェクト階層がフラットなので、アクションやコンポーネントに含まれているステップをより簡単に確認できます。
- パラメータが取り得る値を選択するときは、キーワード・ビューからパラメータを直接追加できます。[プロパティ] 表示枠に戻って、パラメータを追加する必要はありません。

EXT-JS ツールキットで設計されたアプリケーションに対する新しいサポート

Sencha EXT-JS ツールキットで作成された Web アプリケーションのテストが UFT でサポートされるようになりました。このツールキットは、Web 2.0 ツールキットとしてインストールされ、EXT-JS アプリケーションの Web サポートを拡張します。

バージョン 12.50 での製品の機能強化

- **Flex** : UFT Flex Add-in が、新しいメソッドを使用して、FlexTreeView オブジェクト内の埋め込みコントロールをサポートするようになりました。
- **SAP** : Add-in for SAP Solutions が、**SAP WebDynpro Java (WDJ)** アプリケーションと **SAP Fiori** アプリケーションをサポートするようになりました。
さらに、Firefox および Chrome ブラウザで SAPUI5 Add-in がサポートされるようになりました。
詳細については、『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「**SAPWDJ**」および「**SAPUI5**」の項を参照してください。
- **SiebelOpenUI** : SiebelOpenUI ツールキットが、SblOUIDropDownButton オブジェクトでドロップダウン・リスト付きのボタンをサポートするようになりました。

- **Oracle** : Oracle Add-in が、OracleFormWindow オブジェクト用の新しいメソッドで、Oracle アプリケーション内のメニューをサポートするようになりました。

UFT 12.50 での新しい環境のサポート

- Firefox および Chrome の最新バージョンのサポートの更新。特定のブラウザ・バージョンの詳細については、『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』を参照してください。
- Safari 7.1 および 8
- Siebel 8.1.1.11 高インタラクティブ
- Siebel 8.2.2.4 高インタラクティブ
- Flex 3.6 および 4.1.0
- SAPGUI 7.4
- Delphi XE7
- Hummingbird HostExplorer14 (64 ビット) TE
- PowerBuilder 12.6
- Oracle 12.2.4
- VMware ESXi 5.5
- ASP .NET AJAX 4.1.5
- Ext-JS 4.2.2 および 4.2.3
- Google Web Toolkit (GWT) 2.7

フィードバックの送信



新機能の改善点について、フィードバックをお寄せください。

フィードバックの送信先 : sw-doc@hp.com

